

## ・ 教員養成の目標及び計画

### 【教員養成の目標】

華頂短期大学は明治44年に創立された華頂女学院を起源とし、「法然上人の立教開宗の精神に基づき、生命の尊さを深く理解し、素直に感謝の出来る社会人を育成すること」を教育方針としている。

本学における教員養成においては、この教育方針に基づき、人がお互いを認め合い豊かに生きる社会を構築するために、教員を志す学生が子どもの教育を通して社会に貢献する意思を持ち、柔軟かつ的確にその変化に対応する力を身につけていくことを目指している。教育現場において、地域社会の一員であることを自覚し、子どもたち一人一人の可能性を伸ばし、創造性を最大限開花させる確かな教育活動が展開できるよう、学生の資質及び実践力の向上を図る。

次のような教師像を掲げ、目指すべき姿を示している。

- 子ども・保護者・地域に信頼される教師
- 先を見通し学び続ける教師
- いのちを慈しみ感謝の念を持つ教師

### 確かな実践力

コミュニケーション力  
地域コーディネート力  
協働性

### 高い専門性

子ども理解  
課題解決力  
職務遂行能力

### 豊かな感性

人・自然・物への  
慈しみ

### しなやかな

### 人間力

人間として・社会人として  
・職業人として

## 【教職に係る教育課程】

### ～幼児教育学科 教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）より～

幼児教育学科では、学位授与の方針に掲げる目標を達成するために、全学科共通科目、専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実技、実習を適切に組み合わせた授業科目を開講する。教育内容、教育方法、学修成果の評価については次のように定める。

1. 教育課程・授業・学修方法の在り方
  - (1) 知識・理解
    - ・子ども、子育てと家族・家庭、社会について理解する基盤科目、幼児教育・保育に関する基礎理論や技能習得の基礎について学ぶ科目を配置する。
  - (2) 汎用的技能
    - ・幼児教育・保育に関する専門性を有する社会人として、社会で活躍するために必要となる基礎力（文章表現、ICTの活用、意思表示、課題解決、コミュニケーション等に関する能力）を育成する科目を配置する。
  - (3) 態度・志向性
    - ・幼児教育・保育に関する専門性を深く学ぶこと、また実践的に学ぶことを通じて自立性や主体性を育み、他者と協働して社会に貢献することのできる力を育成する専門科目、キャリア関連科目を配置する。
  - (4) 総合的な学習経験と創造的思考力
    - ・幼児教育・保育に関する横断的・総合的な学修を体系的に活用し、自分自身の考えを整理・構築する総合科目、実際の現場で実践を通じて学ぶ実習関連科目を配置する。
2. 学修成果の評価方法
  - ・講義、演習、実技、実習をとおして知識・理解を深め、学修の過程を含めた成果全体を把握し、総合的な実践力を筆記試験・レポート・口頭発表等により評価する。
  - ・GPAによる客観的な評価基準を適用する。